



Sea Breeze 80 湘南学園は、創立80年です

特集1 80周年記念音楽祭

特集2 親子三代湘南学園

特集3 創立80周年記念館

SEASIDE Web は、湘南学園同窓会で検索 <http://shogak-doso.org/>

特集1 湘南学園創立80周年記念音楽祭

11月16日(土) クラシックの日

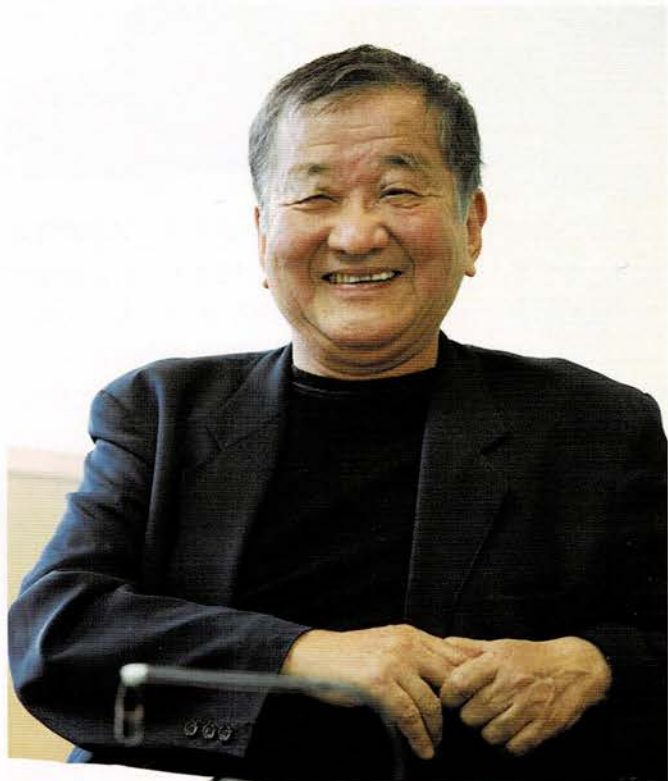
17日(日) ポピュラーの日

共につどい地域と未来に広がる

「生来現役・生来青春

さあ、一緒に歌おう！」 平尾 昌晃

多くの同窓生や生徒の皆さんと出会えるのを楽しみにしています。湘南の恵まれた環境で学んだ思いやりの心を忘れずに、共に歌い、共に笑い、学園の思い出を語りましょう。歌はみんなで共有し、楽しむもの。誰もが平等でフレンドリーに。それが僕の願いです。「みんなが主役」の音楽祭、ポピュラーの日にお待ちしています。



「音楽の楽しみ方は色々

何かを感じてもらえる日に」 尾高 惇忠

皆さんと一緒に演奏し、歌い、鑑賞する、曲を作るなど、音楽には様々な喜びがあります。クラシックの日には是非、皆さんの演奏を聴かせて下さい。同時に、プロの「音」を聴いてほしいと思います。心で感じ、将来のために何かを得て頂ける音楽祭にしたいですね。

平尾昌晃 小学校から中学まで湘南学園(中1953年卒)。歌手、作曲家。(社)日本作曲家協会常務理事。(社)日本音楽著作権協会理事。NPO法人ラブ&ハーモニー基金理事長として社会福祉に貢献。2003年紫綬褒章受章。

尾高惇忠 中学・高校を湘南学園で過ごす(高1962年卒)。作曲家。東京芸術大学音楽学部作曲科、および、パリ国立高等音楽院卒業。東京芸術大学名誉教授。桐朋学園大学特任教授。「交響曲～時の彼方へ～」で第60回尾高賞受賞。

撮影：村田わかな



チーム湘南学園

理事会、教職員、PTA、後援会、同窓会が、湘南学園の発展と子供達の未来のために結成。創立80周年記念事業として、次の3つを機軸に進めて参りました。今後も、学園の将来に向けて、活動の充実を図ります。

1 小学校校舎の増改築



教育先進地域である北欧、特にフィンランドの教育理念や、アアルト^(注)以来の機能的かつ、暖かみのある建築デザインを巧みに取り入れた新校舎が、2012年夏に完成。

吹き抜け上部の天窓から自然光が差し込み、海風が抜けるよう計画されたメディアセンター(図書室・PC教室)は、学習は勿論、憩いの広場で、屋内でありながら外の様な楽しい雰囲気。これを中心に、壁や戸が無い教室が、上から見ると、貝殻の渦巻き状に配置され、オープンスペースを介してメディアセンターへ繋がってゆく構成。

・注：アルヴァ・アアルト (1898-1976) フィンランドの世界的建築家

2 創立80周年記念館の新築

P12 特集記事と併せてご覧下さい

創立80周年記念館は、学園願のカフェテリア、同窓会待望の同窓会室、学園の歴史資料の展示スペースなどからなります。カフェテリアは、生徒の食育の場ですが、運営するNPOは、生徒や教職員以外への食事の提供、夜間利用なども検討中との事、クラス会が開ける環境が整う事を期待しています。歴史資料の展示スペースは、同窓会が企画・運営を委託されました。同窓会組織の中に、資料部会を新設し、学園が保有する様々な資料を整理し、

学園の歴史を未来につなげる役割を果たしたいと考えています。同窓会室完成後は、同窓会活動の拠点として、名簿管理や、皆さまへの情報発信などを拡充する事ができると共に、母校を訪ねて下さる同窓生の歓談の場としてご利用頂けるよう準備を進めています。開館時間、ご利用方法などは、ホームページにてお知らせする予定です。

この記念館の総工費約1億2,000万円の内、5,000万円を湘南学園が拠出、残りは「松ぼっくり募金」により賄われます。皆さまからの多くのご寄付に感謝致しますと共に、引き続き、募金へのご協力をお願い申し上げます。

3 教育振興基金の創設

学園では数年来取り組んでいる国際教育の一環としてオーストラリア、アメリカ、カナダ、イギリス、韓国、中国などへの海外研修や交換留学制度を始め、長期留学も奨励しています。

こうした新しい学園の魅力を支えるため補助的な財源をとという思いから、教育振興基金の構想が生まれました。今後10年間をかけ基金を充実させていく計画です。皆さまのご寄付と末長いご支援を宜しくお願い申し上げます。

創立80周年 キルト企画



皆さまの参加が形になる創立80周年参加型寄付企画として、1年前にスタート。保護者や同窓生の皆さまを中心に参加料500円でキルトキットをお求め頂く方法

で、この一年、亀川(町野)登志子さん(高1961年卒)のご指導の下、月2回の講習会では、多くの方々にご参加頂き、個々の手作りキルトをつないだ4枚のタペストリーが完成。11月15日(金)創立記念式典で、幼稚園、小学校、中高の各校舎に寄贈する予定になっています。

1930年代



1933年(昭和8年)

音楽の時間



1933年(昭和8年)

幼小全児童



1938年(昭和13年)

海軍記念日

共につどい地域と未来に広がる

湘南学園創立80周年記念音楽祭 企画風景

11月16日(土)クラシックの日は、尾高惇忠先生に加えて、篠塚裕子さん(中1958年卒)のご協力を得て、また、17日(日)ポピュラーの日は平尾昌晃先生を中心に、仲本学園長はじめ、音楽担当の先生方や同窓会事業部メンバーが企画推進中。「みんなが主役」の参加型音楽祭として、児童生



アリーナで舞台打合せ中の平尾先生

徒の演奏希望者も数多く、芸術コース卒業生たちの出演も期待されます。

地域の皆さまへも開かれ、本格的なクラシックの生演奏、17日には、平尾昌晃音楽事務所全面協力のもと、NPO法人ラブ&ハーモニー基金との共催によるチャリティコンサートも開かれる予定となっています。



なお、音楽祭の時間等詳細につきましては、後日、プログラム、フライヤー、同窓会ホームページ等にて、ご確認下さい。



会議中の尾高先生・篠塚さん 撮影：村田わかな

同窓生作品展

16日・17日 9:00から

例年、学園祭にて行われていた同窓生作品展を拡充し、今年は、ホームカミングディの両日、小学校新校舎内にて開催致します。絵画、版画、陶芸、写真、手工芸品、各種コレクションなど、多彩な作品展を企画しています。プロの作家の出展や、作品販売も予定しています。



昨年の作品展風景

1940年代



1942年(昭和17年)

運動会

フリーバザール

16日・17日 11:00から

小学校新校舎内、および、その周辺にて、同窓生やPTAによる手作り品や、パン、お菓子などの食品を販売致します。

創立80周年記念Tシャツや、同窓生・在校生著作の書籍類の販売等、他にも様々な出店を企画中です。

また、ご家庭での不要品(新品に限ります)を販売する「掘り出し物コーナー」を設けますので、ご寄贈頂ける方は同窓会ホームページ「事務局へのお問い合わせ」よりご連絡下さい。ご協力宜しくお願い致します。小学校新校舎見学を兼ね、左記作品展と併せご来場下さい。



1945年(昭和20年)

下校風景

グルメブース

16日・17日 ランチタイム

80周年記念館のカフェテリアが皆さまのご利用をお待ちします。「食育」を施したメニューをご賞味下さい。

また、藤沢周辺の同窓生経営の飲食店、PTAの協力による出店も多数企画中です。ご期待下さい!

卒業生歓迎会

16日・17日 16:00から

カフェテリアでは、同窓生の皆さまの歓迎会が催されます。仲本学園長のご挨拶に続き、ご歓談のひとつときをお楽しみ下さい。新設の同窓会室や歴史資料展示スペースもご覧頂けますので、是非ご出席下さい。



1945年(昭和20年)

授業風景

同窓生の力を 結集しよう

同窓会会長 **渡邊和彦**
中1957年卒



湘南学園はご存知のように、保護者と教員が理事会を形成して運営されている極めてユニークな学校です。この体制で80年間徐々に発展させ、校舎も建替えながら、よくぞここまでやってきたなと思います。勿論、80年という歳月は、決して平坦な道ばかりではなかったでしょうが、今また少子化社会を迎え、学園がどう生き残っていくかを問われる時代となりました。生き残るためには子供達を通いたい、保護者が入れたいと思う魅力に溢れた学校にならなくてははいけません。湘南学園がどんな長期的視野を持って、学園の魅力を生み出していくのか、保

護者や先生方には重いテーマです。

湘南学園は、この80年間に一万数千人の卒業生を輩出しました。20代から80代までのエネルギーに満ち、あるいは学識経験に富む同窓生が数多くいるのです。こうした同窓生諸君も協力して湘南学園を支える時代が来たと思っています。学園では国際教育に力を入れ始めました。グローバル化の今日、大変時宜を得た着眼です。学園の魅力を増すこうした取り組みを支えるために、80周年記念事業の一つ「教育振興基金」が創設されました。同窓会として、基金への援助のみならず、学園の取り組みのアドバイスもしていきたいと思っています。まずは、80周年記念に行われるホームカミングデイにご来場頂き、現在の学園を見、そして感じたことを、同窓会に是非フィードバックして下さい。また、先輩の知識や経験を現役生に伝える同窓会セミナーなども計画しておりますので、ご協力お願いします。皆さまの力を結集して母校の未来を開こうではありませんか。



「終章を生きる」 2025年の 超高齢社会を前にして

同窓会広報部長 **高田和男**
医療ジャーナリスト・高1965年卒

昭和の始まりから百年目を迎える2025年が、12年後に迫って来ました。此の年に65歳以上の高齢者が総人口の30%を超え、世帯を支える現役世代が激減する人口構造に突入します。

いよいよ超高齢社会の到来です。湘南学園の周辺の鶴沼や片瀬、辻堂を日中の昼下がり歩いてみて下さい。斯く言う自分も既に前期高齢者の一人ですが道行く人の大半が後期高齢者の人たちです。

戦後の経済発展は、医療の水準をも引き上げました。その結果、平均寿命が飛躍的に伸びる結果となり世界に

類を見ない長寿化を急速に実現化させました。

その一方で、様々な副産物を生み出したのも事実です。都市への人口集中や核家族化、晩婚や非婚化、少子化、独り暮らしの増加などなどです。

いずれも人と人、人と地域との繋がりを希薄にさせています。増え続ける高齢者を支える現役世代も減り続け、年金・医療といった社会保障制度や経済に暗雲が立ち込めようとしています。

新成長戦略は絵に描いた餅に過ぎません。早晩、立ち行かなくなるのは必至です。未来の形をしっかりと考え、長寿を喜べる社会の構築が大切です。誰しもが最期まで望むように生きられる社会の実現は可能でしょうか。私たちは笑顔が溢れる終章を迎えたいものです。

この夏の参議院選挙が永田町の構図に再び変化をもたらせました。同窓生諸兄は投票に足を運ばれましたか？鶴沼も片瀬も投票箱に1票を投じるのは殆どが高齢者でした。湘南の2025年はどんな展開になるのでしょうか…。

撮影：村田わか

1950年代



1950年(昭和25年)

学芸会



1950年(昭和25年)

遊動円木



1956年(昭和31年) 運動会・フォークダンス



パリの屋根の下
真下仁の人生記

真下 仁 高1965年卒
KENZO TAKADA 参与
デザイナー

僕は、学園卒後、多摩美大でテキスタイルデザインを学び、1973年、憧れのパリに移住しました。勿論、初めのうちは苦勞の連続で何度もホームシックになりましたが、必死で頑張っていたら、高田賢三が仕事人を求めているとの情報があり、早速、彼と面談。僕の今後の人生が此処で決まるとの思いで、後にも先にも大一番の真剣勝負で臨みました。幸いケンゾーに思いが通じて工房に採用され、フランスで働く労働許可証も事務所で申請してくれました。1976年7月から、パリの屋根の下でケンゾーコレクションのデザインを

任され、スカーフやネクタイなど、日本にも僕の作品が流通しています。40年近い高田賢三との師弟関係が続いていますが、彼のモノに対する見方や感受性などに強烈な刺激を受けて来ました。彼を取り巻くパリ人脈とも親しくお付き合いすることも出来ました。フランスのあらゆる分野のトップの人たちなので、非常に得難い体験や勉強をさせて貰っています。先日（5月）に日本に帰国した際に、何十年ぶりかで学園の周りを一回りしましたが、残念なことに思い出のプールも姿を消し、校舎や体育館も見違えるようになっていて、正直、なんとなく寂しい思いを懐きました。僕の在学時は「個性尊重の教育」が重視されていました。今後、日本は益々、国際化の荒波に揉まれることは必至です。湘南学園とて、少子化の荒波の中で生き残りを図る策の構築を、真剣に考えておられると思います。卒業生として、パリの空の下から声を大に「学園よ、個々の個性を重視した独自教育を確立して生き残れ！」と叫んでペンを置きます。

緩いなら緩さの
良さを生かそう



佐藤彰雄 中1960年卒
フリーライター（元スポニチ記者）

スポーツ新聞に勤務していた私は、ある年の某月某日、後輩のアマ野球担当記者から、こんな報告を受けました。「まったく緩いですね。取り上げなくても……」

ときは夏。神奈川県下の各高校野球部は、夢の甲子園を胸に近づく県大会に向けて緊張度を高めていました。

この時期、話題づくりに東奔西走の後輩記者は、湘南学園野球部に足を運びましたが、話題は少なく、全国レベルを誇る神奈川県下の私学にしては「緩い！」と、出された原稿も緩くなりました。

そういえば昨今の平成社会、爆発的な“ゆるキャラ”

ブームです。ご当地の繁栄を背負う着ぐるみたちが、それと公認されるには「三か条」があるそうで、それは、①郷土愛への強いメッセージ性 ②立ち居振る舞いが不安定かつユニーク ③愛すべき緩さを持ち合わせているなどでした。つまり、そこにあるのは闘争性や危険性のない弱さ、癒しと安心感。思えば昭和世代のオレたちは、そう、力道山や裕ちゃん、さらには「巨人・大鵬・卵焼き」と、強さこそが正義！と憧れたものでしたっけ。

ああ、情けない！と嘆いても、平成の世は今や、体罰に神経をとがらせ、このほど、文部科学省から提示されたガイドライン案では、腕を引っ張ることさえ要注意、理由づけがいろいろあります。もう“スポ根”などは昔の話。今は緩さの時代なのでしょう。

ならば緩さの良さは何か？それは、既に縛られない自由な発想、斬新性、柔軟な対応力、などでしょうか。活路はそのあたりですね。超高校級と評価される逸材たちは、たいていそれらを備えているものです。

撮影：村田わかな



1958年(昭和33年) 小学校校舎



1958年(昭和33年) 中高校校舎(後の美術室)



1962年(昭和37年) 54年竣工の中高校校舎

親子三代
座談会

大森さんご家族



大森(大沼)裕子さん 小1942年卒
岸本(大森)亜由美さん 高1978年卒
岸本優香さん 高2002年中退

鈴木さんご家族



鈴木克彦さん 小1954年卒
鈴木(岩崎)陽子さん 高1961年卒
下澤(鈴木)晴子さん 中1985年卒
下澤彩香さん 小5在学中

なぜ「親子三代学園生」なのか

高田 湘南学園は今秋、創立80周年を迎えることになりました。そこで本日は、親子三代に渡って湘南学園生の4家族の方々にお集まり願いました。なぜ親子三代となったのか、まずは、そのあたりから。

池田謙二郎 アハハ。理由というほどのものはないのですが、まず第一に家が隣接していたことでしょうかね。それと学園は、このあたりでは一番、家庭的な雰囲気を持っていましたから。

池田祐司 親戚もほとんど、こちらにお世話になっていました。私も躊躇なく、最初から学園でした。

高田 妃菜子ちゃんはどうですか？

池田妃菜子 楽しいです。みんなでやる劇が大好きになりました。

鈴木克彦 私は東京にいて疎開先が鶴沼だったんですね。当時、宮下正美先生が園長を務めていらして、あの先生の下で教えを受けることが一番いい、と言われました。ありがたい学校生活を送らせて頂き満足しています。妻も学園生ですし、娘も孫もそうですが、安心感ではここしかない、という選択肢でした。

下澤晴子 私は、幼稚園からずっと、お友達が一緒。先生方も良く、家族のような良さを感じていましたので娘も入れました。

高田 彩香ちゃんは小学5年生ですね。学校は楽しいですか？

下澤彩香 ハイ、楽しいです。校舎も新しいし…。

大森裕子 80周年なんですね。こんなに立派に世間に通用する学校になって感慨深いです。私は昭和8年に入園、最初の幼稚園生でした。

高田 校舎はここでしたか？

大森裕子 ここです。砂山があつてね。砂の校庭で裸足で過ごしていましたよ。そのころのことを思い浮かべると涙が出るほど懐かしい。当時は小学校まで、中学が出来たら行きたかったのに、なかなか出来なくてね。結局、別のところに行きました。寺子屋のような、とても楽しい学校生活でした。だから娘もこういう環境に入れたかったですね。



1936年幼稚園卒園式(大森裕子さん蔵)

記憶に残る大らかな校風を伝えたい

高田 それぞれが味わった、ノビノビとした大らかな学園生活をわが子たちにも伝えたいという思いが親子三代学園生に繋がっているのですね。今も記憶に残る出来事などは？

山室佐知子 私は体育祭での応援団が記憶に残っています。中・高の縦割りが凄かった。

岸本亜由美 私は運動会で行われた全校リレーですね。私も小1で参加したのですが、次第に上級生にバトンが渡り、高校生の迫力のある走りに圧倒されました。

鈴木陽子 あのリレーは印象深かったですね。高校生の、あのドドツという足音が凄いですよね。

高田 あのリレーはある意味、学園の象徴でしたね。生徒、先生方、また父兄が一体化して熱くなっていたからね。

山室佐知子 ある音楽祭で高校生の演奏を聴いたんですけど素晴らしかったですね。高校生でこんなに出来るんだと驚いた記憶があります。

高田 服装はどうでした？ いつの頃からか制服着用となりましたよね。

岸本亜由美 親としては制服があっ

1960年代



1963年(昭和38年) 62年竣工のRC造校舎



1965年(昭和40年) 本館・体育館



1965年(昭和40年) 本館階段教室

(写真順不同・本文中、敬称略)

池田さんご家族



池田謙二郎さん 高1955年卒
池田祐司さん 高1990年卒
池田妃菜子さん 小4 在学中

榭原さんご家族



榭原祥子さん 山室(榭原)佐知子さん 高1996年卒
故榭原康吉氏代理 (高1962年卒)
山室瑞王くん 幼稚園年少組

広報部



司会 高田和男 高1965年卒
構成 佐藤彰雄 中1960年卒

たほうが楽でしたね。でも、女子はブレザーとスカートをオーダーしてつくるんですけど、指定の生地などが結構、上等で…。

鈴木陽子 「良い子の教え」というのがありましたね。朝礼で園長先生が『父母を敬え 人には親切 はいといえをハッキリと 明るく素直に大きくなれ』と言って皆がハイッ！と答えるんです。いかにも学園風景ですよ。

居心地の良さと同居する

対外的な弱さが課題

高田 楽しい思い出ばかりですね。とはいえこれから、子供さんやお孫さんたちが、自分たちの子供たちをまた、ここで学ばせたいと思うためには、課題もあると思います。

池田祐司 塾などに通うようになって外に出たとき、他と違う面が出てきましたね。公立校の子供たちに比べて「よそを知らない」部分を多く感じたものです。

高田 このご指摘は、学園生の大きな課題ですね。良くもあり、悪くもあり、という部分だと思います。

下澤晴子 そうですね。ずっと中に

いると周りが見えなくなってしまう、ということはあると思いますね。高校を出た後で苦労してしまいます。私は、子供たちには、いろいろなところを出して、こういうところもあるんだよ、ということを知ってもらいたいと思っています。

岸本優香 同じ環境でずっと長い間いると、意思表示がなくても伝わってしまう傾向が出てきますね。つまり「考えない環境」が出来上がってしまう。その点を変えていかないと、社会に出て何も言えない子になってしまう、と思います。

岸本亜由美 井の中の蛙になっては、と思い、娘をカナダに留学させることにしたんですけど、そのとき、学園からは反対されましたね。視野を広めることは必要なんですけどね。

岸本優香 反対の理由として、学園は進学率を気にしているようでした。私としては、学園の進学率より、生徒たちの伸び率を考えてほしかった。その意味で反発もしましたね。

鈴木克彦 社会に出てどういうものが求められるかという、あまり画一的な、金太郎飴のように切っても皆、同じ顔でなく、個性ではないかと思っています。個性のある人間は最後

に残りますからね。そういうものを考慮した教育をしていただければ…と思います。

高田 私学ならではの独自性ですね。鈴木克彦 そうですね。私自身は、社会に出て、私が知らないことを知っている人がこんなにもいるのか、と驚かされましたが、そういうことを学園の教育の中で経験させてあげたら、と思いますね。

池田謙二郎 80周年の次は100周年ですね。私たちは、学園の家庭的な雰囲気の中で、いい学校生活を送らせていただいたと思っています。この校風、環境を昔のまま残しながら、いい方向に進んでもらいたい、と願っています。

高田 そうですね。時代背景は違っても、それぞれのご意見から、今後の指針などが浮き彫りにされたのではないかと思います。皆さん、ありがとうございました。



撮影：村田わかな



1967年(昭和42年) 東校舎



1967年(昭和42年) 幼稚園(64年迄小学校)



1968年(昭和43年) 榭原幼稚園



きみたちいま “疾風怒濤”

シュトルム・ウント・ドランク

那須備述 先生

昭和30年～平成2年 小学校教諭を勤められた那須先生よりご寄稿頂きました。

4年前のことだ。この日も聖ヨゼフ学園正門わきの守衛室で記帳をすませ、いつものように校舎に入った。案内された応接室で5時限から始まる教員研修のレジュメにひとりで目を通してしていると校長が挨拶にみえた。

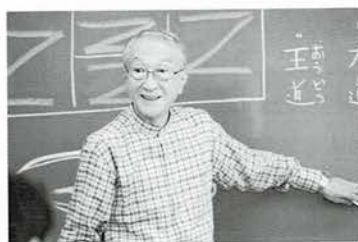
校長との雑談中、ノックとともに半開きのドアから、「那須先生にご面会の方がー」と教頭の声がする。校長はドアの外の面会人に目をやってから、げんそうに視線をわたしに戻した。わたしが「どうぞ」と言って立ち上がると五十歳くらいの先ほどの守衛さんだった。

「那須先生お久しぶりです。広川(仮名)です。わたし、

中学から湘南学園入ったもんですから先生覚えてないですよね」

「——わたし、リストラされてましてね。こちらでこんなことやってます」と警備会社の胸マークをさしている。人生の逆境にあっても微塵も引け目を感じさせず、笑顔で胸を張って応接室にまで挨拶に来てくれている。学園っ子らしいさわやかさがうれしくて思わず手を差しのべた。

数日後、楽しみにまた守衛室に行くと別の守衛さんだった。教頭に聴いたら「都合ではかのほうに移られました。でもね那須先生！ 今度うちの中高に湘南学園出身の新しい先生を採用したんです」と知らせてくれた。



先生は今も横浜駅近くの横浜アカデミービル内で、大学進学志望のための小論文教室、中学・小学生の作文教室を開いています。また、実年者のエッセイ教室も月1回開講なさっています。

撮影：村田わかな(2点共)

中川忠男 先生



昭和36年～平成16年 体育ご担当
中川先生にお話を伺いました。

湘南から秦野に住まいを移し、早いもので足掛け5年経ちました。丹沢の麓で周囲が山と丘に囲まれ、市の中心部を流れる清流水無川が湘南の海辺と同様に私に安らぎを与えてくれます。

私は、昭和36年日本体育大学卒業後、大先輩でもある故峰島先生にご紹介頂き湘南学園の体育教師として着任しました。先ず感じたことは緑の中のこぢんまりとした校舎、しかし生徒が明るく弾けるような笑顔、何ともいえない雰囲気を感じました。これから自分は、この生徒達の先頭に立ち何かしなければと、心が奮い立ったこと

を覚えています。最初の授業では、自己紹介で勢い余って武勇伝を話したことを覚えている方もいるかもしれませんが。忘れることが出来ない思い出は、幼稚園、小学校児童を対象とした水泳教室です。水を怖がる子供も、いつしか水と戯れ泳ぎを覚えるひたむきさに、今でも感動を覚えます。その子供達の未来はどうであったらうか、会いたい気持ちです。

今年の夏で、75歳になる私は、ボランティア活動の一環で8人の仲間と地域の清掃美化に取り組んでいます。月5回で1日5万歩は歩きます。おかげで足腰が鍛えられ健康維持に大いに役立っています。また見知らぬ人や子供達と積極的に会話することを心がけ、老化防止に努めています。白いものも増えましたが、気力体力は老いても衰え知らずと思うのは自分だけでしょうか。

秋には創立80周年と聞いております。湘南学園が教職員、生徒、父兄、同窓生が一体となり、更に発展することを心から祈りお祝い申し上げます。

取材：村上一彦

1970～1980年代



1973年(昭和48年)

6号館



1975年(昭和50年)

運動会



1983年(昭和58年)

学園祭・ボンファイア

現役生紹介

『17』裸足で残した唄々

日本文学館刊

著者は現役学園生

詩人 初見誌音こと

杉村嘉保さん (高3)



この5月、現役学園生の杉村嘉保さんが詩集を出版されました。作者が「初めての自身だけの本」と語る文庫本サイズの詩集を開けば、「ベンチで待っていてくれる君の元へ ケータイを片手に走っていく」(君のベンチ)、「砂浜に残る足跡のように 遊び心を覚えていて」(十七)など、高校生の「今のことば」で描かれ、清々しく、同時にどこかノスタルジック。作者の豊かな感性は、海辺、そして14年間の学園生活で育まれたものでしょうか。

ペンネームは、小6の時に世話をした1年生の名前「しおん」が由来。響きの美しさがずっと心に残ってい

たこと、「誌」の文字には“おぼえておく”という意味があり、「初めて見るものも音のようにおぼえておく」という気持ちから。そして、『17』というタイトルは、女子高生にとって17歳が一番輝く時と感じ、その一年間の作品に思いを込めてつけたとのこと。

詩は、小4の時、担任の寺田先生に勧められて書き始め、今では下校時のバスの中で一日を振り返り、ふと頭



に浮かんだ言葉が紡がれ、ご自身や友達への心の描写が鮮やかに織りなされていきます。

将来は作詞家になりたいと話す彼女は、文学部日本語学科への進学を目指す受験生でもあります。幅広い世代の皆さまに、お手に取って頂き、懐かしい「17」の頃を思い出して頂ければ幸いです。

取材：國分・廣川



日本海洋学生スポーツ大会 ヨット競技U-16 三位入賞

セーリング・ディンギー

松尾海里さん (中1)

真っ黒に日焼けした少女は、ジュニアヨット競技で活躍中の松尾海里さん。小学校5年生の11月からセーリングを始め、早くも、6年生の秋にはマイアミで開かれたワールドカップに参戦する腕前に。しかし、初めての国際大会が不本意な成績だったことで発奮。懸命に努力を重ねた結果、中学生になったばかりの今年5月、日本海洋学生スポーツ大会・16歳以下のクラスで見事3位に入賞しました。普段は、お父様が代表を務める「江ノ島ちよっとヨットビーチクラブ」(江の島東浜)でジュニアクラスの仲間と共に練習に励んでいます。目標を聞けば、

1990～2000年代

「クラブの中で自分よりもっと巧い人を抜かしたい」と即答、競技への熱意に満ちたまなざし。学園へは、のびのびとした校風と、海に近い環境を好んだご両親の勧めで、幼稚園から。妹さんお二人も幼・小に在籍、週末は一緒に海に出ることもあるそうで、将来が楽しみです。

現在は一人乗りヨットですが、これから、二人乗りの艇種を始めたいと、ヨットパートナーを募集中。ご興味ある方は、「ちよっとヨットビーチクラブ」で検索、050-2018-0944へ。同窓生のヨット乗りも多士済々。「470級、木下さんに続け!」と、応援したいものです。



取材：國分・廣川



1993年(平成5年)

生徒会館



2004年(平成16年) 中高新校舎(2003年竣工)



2013年(平成25年) 小学校新校舎(2012年竣工)

思い出の母校で旧交をあたため楽しい1日を

—11月16日・17日はホームカミングデー—

学園長 仲本正夫

湘南学園卒業生の皆さま、今年は創立80周年の年で、11月16日（土）と17日（日）はホームカミングデーです。両日には、小学生や中高生それに卒業生が出演する音楽祭を楽しむことができます。また、小学校や中高の教室等は、卒業生の皆さまに開放してご利用いただくことにしております。音楽祭は、16日は尾高惇忠先生・篠塚裕子先生のプロデュースするクラシックの日、また、17日はポピュラーの日ということで、午後には地域の方たちにも大きく開かれたチャリティコンサート、「湘南学園創立80周年記念コンサート 平尾昌晃と一緒に音楽を〜」（仮題）が行われます。ぜひ、級友の皆さまとともに母校にお出かけになり、旧交をあたためつつ、楽しい一日を、

お過ごしになれますようご案内申し上げます。

さて、10月中旬完成予定の80周年記念館には、同窓会室と共用スペース（資料展示コーナー）、200名の生徒が利用できるカフェテリアが誕生します。この建設の為の「松ぼっくり募金」は4000万円を突破し、目標の5000万円にあと一息です。皆さまのご協力に感謝するとともに、創立記念日までには目標達成できますように、さらなるご協力をぜひともお願いいたします。

尚、湘南学園の近況は湘南学園ホームページで、幼・小・中高の様子が日々、詳しく紹介されておりますので、ぜひご覧ください。では、皆さまのご来校を心からお待ちしております。

在校生を励ます！広がる卒業生のご支援

中高校長 山田明彦

中高は校舎と制服をリニューアルしてほぼ10年。明るく和やかな校風と自主性あふれる生徒の雰囲気は変わりません。生徒会行事は更に盛り上がり、部活動でも数々の実績を出し、国際交流のプログラムにも積極的です。

3年前から「サポーターバンク」を起ち上げ、多数の卒業生が登録してくれました。部活支援に加えて在校生への学習支援も広がっています。大学受験後の講演会や相談会、学習法指導会、キャンパスツアー案内など、先輩達の励ましが意欲を高め、次世代に受け継がれる流れが来ています。ここ数年「成人の日」の祝うつどいも恒例化し、大勢の卒業生が母校に結集してくれています。

80周年記念館こそ今後大いに利用して、旧交を温めて頂きたいです。卒業後も気軽に戻れる大事な拠点が私学です。我々教員も皆さまとの末長いおつきあいを生き甲斐にしております。再会の嬉しさもバネにこの時代を生きぬき、それぞれの幸福を築いてまいりましょう。

80周年に向かって前進する小学校

小学校校長 斉木修

湘南の文化、自然、歴史を背景に、北欧フィンランドの影響を強く受けた小学校新校舎は、各方面から高い評価をいただいています。

小学校はこの優れた教育環境を生かして、一人ひとりの子ども達に豊かな学力を保障するために、教育研究に力を入れてきました。昨年11月に実施した「公開研究会」は関東近県だけでなく、東北、関西の先生方も参加した充実した研究会になりました。このような教育実践研究をベースに、小学校の良さを広く、積極的にアピールし、知名度も、評価も高まってきている事を実感しています。

80周年行事、またホームカミングデーには同窓生の皆さまに小学校にぜひ足を運んでいただき、旧交を温めていただきたいと存じます。

『預かり保育「ぐるんぱ」開設』

幼稚園園長 古田優子


子育て支援の充実と幼児教育の振興を図るために、湘南学園幼稚園では、平成25年4月より、預かり保育「ぐるんぱ」を開設いたしました。

この預かり保育は、保育時間の延長として行うものではなく、家庭の用事・緊急時・仕事をしていらっしゃる方々を対象に、子育て支援のひとつとして実施しております。保育後、子ども達が家庭にいる様な温かい雰囲気と、ゆったりと安心して過ごせる環境を整えております。



在校生指導風景

祝 湘南学園創立80周年

<p>別府病院 院長 別府 倫 兄 (中1959年卒) 〒251-0016 藤沢市弥勒寺1-23-10 電話 0466-26-1515代</p>	<p>株式会社 平塚竹田組 会 長 川之辺 繁 (高1953年卒) 取締役社長 川之辺 潔 (高1981年卒) 〒254-0014 平塚市四之宮2-4-21 電話 0463-21-5196 FAX 0463-22-0714</p>	<p>磯料理 仙水・海産物 丸代 二見 幸雄 (高1955年卒) 〒251-0036 藤沢市江の島1-4-19 電話 0466-26-4701</p>	<p>奥 医院 院 長 奥 義 治 (高1968年卒) 〒251-0045 藤沢市辻堂東海岸4-13-3 電話 0466-36-8513</p>
<p>中山眼科医院 院 長 中 山 義 章 (中1959年卒) 〒251-0025 藤沢市鶴沼石上1-2-4 電話 0466-22-3137</p>	<p>島の茶屋 あぶらや 秋岡 恵利子 (中1966年卒) 〒251-0036 藤沢市江の島2-5-8 電話 0466-50-6180</p>	<p>株式会社 東和酵素 宮崎 和男 (高1966年卒) 〒254-0064 平塚市達上ヶ丘1の6 電話 0463-31-1872</p>	<p>禪建築事務所有限公司 代表取締役 前場 靖弘 (高1971年卒) 〒252-0815 藤沢市石川5-9-8 電話 0466-88-7074</p>
<p>しらすと伊勢海老の忠兵衛 代表 脇田 忠 (高1961年卒) 〒251-0035 藤沢市片瀬海岸1-12-25 電話 0466-27-1455</p>	<p>奥山動物病院 院 長 奥 山 寿 一 (中1959年卒) 〒251-0031 藤沢市鶴沼藤が谷4-14-15 電話 0466-27-1181</p>	<p>舟 善 磯料理・海産物 鈴木 修 (高1966年卒) 〒251-0035 藤沢市片瀬海岸1-3-4 電話 0466-27-0048</p>	<p>紀の国屋本店 女夫まんじゅう製造販売 湯浅 裕一 (高1969年卒) 〒251-0036 藤沢市江の島2-1-12 電話 0466-22-5663</p>
<p>羽坂医院 館野 まゆみ (旧)羽坂まゆみ (高1975年卒) 〒251-0038 藤沢市鶴沼松が岡4-16-15 電話 0466-22-1433</p>	<p>宝製菓株式会社 岩崎 好男 (高1958年卒) 〒245-0065 横浜市戸塚区東俣野町1750 電話 045-851-2001</p>	<p>株式会社 小浜土地建物 代表取締役社長 大八木 信義 (高1971年卒) 〒253-0021 茅ヶ崎市浜竹3-3-37 電話 0467-89-2622 FAX 0467-89-2621</p>	<p> 事務用品・オフィス家具・OA機器 株式会社 相馬屋 代表取締役社長 長妻 啓之 (中1955年卒) 経営本部 〒251-0024 藤沢市鶴沼橋1-5-1 電話 0466-23-1615代 FAX 0466-23-1625</p>
<p>神奈川ベストホーム株式会社 専務取締役 猪俣 成人 (高1976年卒) 〒247-0056 鎌倉市大船1-15-4 神奈川ベストホームビル 電話 045-340-4788 FAX 045-340-4789</p>	<p>ヒール アンド トウ 代 表 鈴木 克彦 (小1954年卒) 〒251-0038 藤沢市鶴沼松が岡2-13-10 電話 0466-22-4331</p>	<p>株式会社 古木ビル 代表取締役 古木 振一 (高1967年卒) 〒254-0043 平塚市紅谷町2番3号 電話 0463-21-1542</p>	<p>株式会社 梅屋 代表取締役社長 濱田 純一 (高1967年卒) 〒254-0043 平塚市紅谷町5-20 電話 0463-22-4147 FAX 0463-23-8981</p>
<p>平塚段ボール株式会社 取締役 富田 良男 (高1968年卒) 湘南工場 〒253-0101 高座郡栗原町倉見1801-1 電話 0467-75-4455代 FAX 0467-75-2051</p>	<p>おかげ様で35周年 イタリア館 川崎 賢 (高1965年卒) 〒254-0811 平塚市八重咲町24-28 ドエル杉山1F 電話 0463-21-6919</p>	<p>レストラン・ミモザ 中野 加津子 (高1967年卒) 〒254-0807 平塚市代官町11-34 AFKビル2F 電話 0463-22-5705</p>	<p>国府津館 専務取締役 簗島 哲夫 (中1966年卒) 〒256-0812 小田原市国府津3-8-8 電話 0465-47-2155</p>
<p>株式会社 大広社 取締役会長 大森 文夫 (高1961年卒) 〒256-0812 小田原市国府津2699-6 電話 0465-48-1293</p>	<p>株式会社 神奈川孔文社 木村 貢 (高1971年卒) 〒245-0063 横浜市戸塚区原宿2-58-5 電話 045-852-4138</p>	<p>株式会社 チャイルド本社 代表取締役 浅香 俊二 (高1967年卒) 〒112-8512 東京都文京区小石川5-24-21 電話 03-3813-3781 FAX 03-3813-3778</p>	<p>宝飾店チコ オリジナル宝飾品製造販売 加藤 千鶴子 (高1961年卒) 〒251-0037 藤沢市鶴沼海岸2-6-2 電話 0466-34-0542</p>
<p>平塚湘友会 〒254-0043 平塚市紅谷町2番3号 電話 0463-21-1542</p>	<p>蕎麦処 相模屋 地産・国産の素材 竹内 公一 (小1962年卒) 〒251-0027 藤沢市鶴沼松が岡3丁目2-1 電話 0466-21-6088</p>	<p>辻堂デンタルクリニック 院 長 小林 利也 (小1980年卒) 〒251-0042 藤沢市辻堂新町1-17-24 豊信ビル1F 電話 0466-33-8477</p>	<p>榊井印刷有限公司 代表取締役 榊井 規雅 (高1961年卒) 〒250-0004 小田原市浜町3-11-11 電話 0465-22-3945</p>

(順不同 敬称略)



設計監理：株式会社 洋建築企画

カフェテリア・オープン
待望の同窓会室に集おう

コンセプトは、
楽しく集い、楽しく食べる。
食をテーマに深められる
湘南学園ファミリーの絆。
様々な活動を受け入れられる
平屋の大空間。

2012年3月に行われた設計コンペティションで、多数の応募案の中から、見事一等に選ばれたのは、茅ヶ崎で株式会社洋建築企画を主宰する建築家、山口洋一郎氏。湘南高校や栄光学園の校舎、茅ヶ崎市美術館の設計を手掛け、茅ヶ崎の文化景観を育む会代表でもある山口氏ならではのコンセプトと工夫に満ちた建築。

図面を見ると、近隣に配慮して、既存校舎側に開かれたガラス面（上図参照）は、校舎との一体感を生み、透明感のある面持ち。緑豊かでゆったりとした北庭、日本の縁側を思わせるような深い軒の出に誘われ、エ

ントランスを入ると、右手がカフェテリア（約280㎡、216席）。約4mの上昇感ある斜め天井の大空間で、南向きの高窓からは、湘南の柔らかな陽射しが差し込み、北のガラス面から、こちらへ風が抜ける仕掛けです。エントランス付近には、その日の食材が紹介される事でしょう。通常隠されてしまう厨房部分も、極力オープンにして、調理工程が把握できるように工夫されています。

そして、エントランス正面奥に目をやれば、同窓会が管理する予定の学園の歴史資料が展示・収納されるコーナー（約55㎡）。ここは、限られ

た予算の中で、展示以外に、PTAの会議、来賓用の食堂などとしても使用出来るように、共用スペースとして計画されており、その奥が、待望の同窓会室（約35㎡）です。幹事の常駐、パソコンなど専用機材に加え、コーヒーマーカーを設置、皆さま同窓生が気軽に立ち寄れる歓談の場、手芸・絵画などサークル活動やミニ同窓会に、ご活用下さい。

建築概要

主要用途	学校(食堂)
構造・規模	鉄骨造・地上1階
建築面積	590.33㎡
延床面積	588.16㎡

VIVA SHOUNAN GAKUEN EIGHTY ANNIVERSARY. VIVA SHOUNAN GAKUEN EIGHTY ANNIVERSARY. VIVA SHOUNAN GAKUEN EIGHTY ANNIVERSARY.

湘南の皆様と共にあゆむ企業です。

相模石油株式会社

本社 平塚市紅谷町16番4号 (0463) 22-0201(代)

代表取締役 小泉 光一郎 (中1967年卒)

HP: <http://www.sousekisan.ne.jp>

ENEOS エネルギー事業部 (0463)22-0200
ガ ス 課 (0463)22-4459

バッティングパス 秦 野 (0463)86-0289
湘南・平塚 (0463)55-1925

ダイレクトパーク (0463)22-8989

オリックスレンタカー (0463)23-0543

タイムズ相石・パーク (0463)22-0264

F.ドリーム平塚 (0463)24-3786

アクアクララ南関東 (0463)73-4132

BOOK OFF 平塚駅西口店 (0463)24-2902

ソータス・車検センター (0463)34-3334

サンマルク大磯店 (0463)61-0309

炭火焼肉酒家牛角平塚店 (0463)25-4129